

# 母子自由遊び場面における母親の Mind-mindedness と 子どもへの注視との関連

砂原 なごみ

ヒトは他者の意図や感情、欲求を理解するために、メンタライジングという能力を使用する。メンタライジング能力は、成人間の相互作用だけでなく、親子間相互作用や乳児の発達に影響を及ぼすものとして研究がすすめられてきた。メンタライジングの一つに Mind-mindedness という概念がある。Mind-mindedness は親の言語行動に焦点を当てた評価方法である。しかし、社会的相互作用において、言語は一つの側面にすぎず、親の非言語行動もメンタライゼーションを評価する上で有効な手法になるかもしれない。また、日常生活において普遍的な親子間相互作用場面で、かつ客観的に計測可能な非言語行動指標を用いて、メンタライゼーションを評価した研究はない。

本研究では、非言語行動指標として顔への注視に着目し、親子間相互作用における顔への注視が、メンタライゼーションを表す指標となり得るか、その妥当性を見当することを目的とした。顔は他者の視線や表情などの社会的な情報を多く含んだ部位であり、他者の信念や意図を推測する手がかりとなることが明らかになっている。20 分間の母子自由遊び場面において、母親の Mind-mindedness が、母親の視野内に乳児の顔が映った際に乳児の顔を注視する割合と関連するという仮説を立て、その可能性を検討した。対象は、本研究室の赤ちゃん研究員プロジェクトに参加している母子 40 組（平均月齢  $11.8 \pm 0.52$  ヶ月）である。母親に Tobii Pro Glasses 3 を着用させた状態で、20 分間の自由遊び場面を実施し、記録した。実験後、母親の全発話数に占める、心に関する適切なコメント数を求め、Mind-mindedness 得点を算出した。また、母親の視線の動画から乳児の顔検出を行い、顔が視野に映っており、かつ注視点が検出できている画像数のうち、視野内の顔を注視している画像数が占める割合を算出した。

本研究の結果として、SES（両親の教育歴）を統制しても、母親の Mind-mindedness が多く表出されれば、視野内に乳児の顔が映った際に乳児の顔を注視する割合が多くなることがわかった ( $r = 0.33$ ,  $t(37) = 2.13$ ,  $p = .040$ )。探索的分析として、Mind-mindedness の発話と Mind-mindedness でない発話を比較したところ、母親の全発話数のうち、発話付近の 6 秒間において乳児の顔を注視していた発話数の割合に差はみられなかった ( $t(30) = 1.36$ ,  $p = .185$ )。

上記の結果から、親の乳児の顔への注視が親のメンタライゼーションを表す非言語的指標として妥当な性質を備えたものであることが分かった。一方で、Mind-mindedness を発話するタイミングと乳児の顔を見るタイミングは時間的に近接していなかった。発話行動と顔への注視行動で、「行動が生起しうる状況の範囲」に違いがあることがその原因になっている可能性がある。また、Mind-mindedness の発話は子どもの行動に基づいており、乳児の手や物体に対する母親の注視が発話のタイミングと時間的に近接する可能性がある。

今後の研究では、乳児の顔への注視が長期的に親子の愛着関係や子どもの発達を予測するかどうかを検討するとともに、母親が乳児の顔のどの部位を見ていたのかを調べることで、乳児の顔への注視がメンタライゼーションを表す非言語行動指標として妥当な指標となるか、さらに基準関連妥当性を評価していく必要がある。また、Mind-mindedness の個人差によって、Mind-mindedness の発話と乳児の顔を見るタイミングは異なるのかどうかについても検討する。（比較発達心理学）